

診療最前線

小兒科
(後編)



小兒科部長
池野 一秀

自律神経バランス検査と治療

睡眠位相後退症候群

前回、頭痛や不眠などの不定愁訴が、自律神経の不調が原因で起こることをご紹介しました。今回は、**24時間自律神経バランス検査**の実例とその治療についてお話しします。

図1は、頭痛と昼間の眠気を訴えた高校2年生の男子の検査結果です。夜間の睡眠を5時間から10時間とついているにも関わらず、日中の眠気が強く、授業中いつの間にか寝てしまうという訴えでした。グラフをみると

る薬を飲み、昼は交感神経を高める治療を行い、5か月後に完治しました。こうした治療には、自律神経のバランスを整える漢方薬が有効です。

交感神経が目覚めない

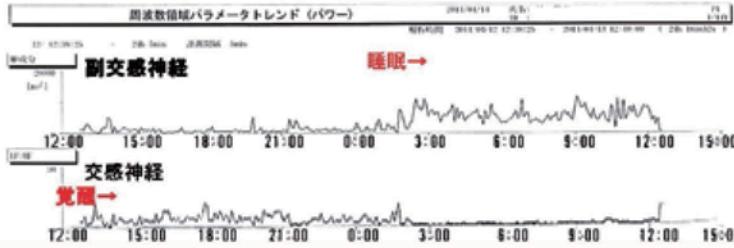


図 1 睡眠位相後退症候群

星間の覚醒レベルが低下しているのです。治療とし

た。つまり、睡眠に入る時間と目が覚める時間が、後ろへ大きくなり、くずれて

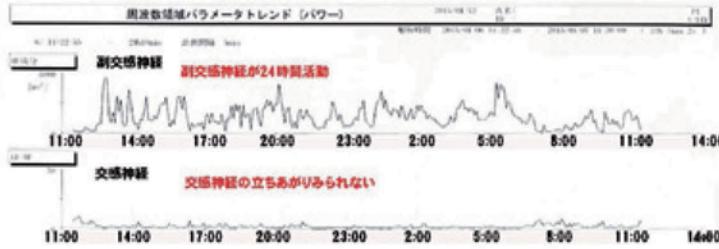


図2 副交感神経優位

く眠い」と訴えます。自動車の運転に例えると、坂道

1日を通じて活動性を交感神経させません。経のバラたとえてわけでは忙しさに交感神経感神経もいたのではないでしょうか。実際、ストレスで交感神経も副交感神経も過剰に活動している患者さんは、「緊

自律神経の治療に漢方薬が有効

こうした自律神経の活動性が正確に分かると症状の原因も明確になります。しかし、西洋医学では、自律神経を調節する薬はそれほど多くありません。一方、漢方薬には自律神経のバランスを調節する薬や、文字通り元気を出す薬も存在します。こうした漢方薬の種類と内服時間を見つめ細かく調整することにより、自律神経のバランスを正常化することが可能です。

まず原因の診断、そして治療

ご紹介した自律神経のバランス検査や原因に対する漢方治療ができる病院は限られています。長野松代総合病院小児科では、検査と治療のいずれも対応できますのでご相談下さい。